日本学術振興会に紙媒体で提出する必要はありません。

様　式　Ｆ－７－１

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）実施状況報告書（研究実施状況報告書）（平成２９年度）

機関番号	３２６０４

所属研究機関名称		大妻女子大学
研究代表者	部局	社会情報学部
	職	講師
	氏名	宮崎　美智子

１．研究種目名　若手研究(B)　　２．課題番号　16K21341

３．研究課題名　視線随伴パラダイムを用いたAgency調整システムの発達過程の解明

４．補助事業期間　平成２８年度～平成３０年度

５．研究実績の概要

自らが行為をしているという感覚（行為主体感：Sense of agency）は我々の自己意識の根幹である。行為主体感には，感覚運動情報から導かれるボトムアップの主体感と文脈・信念等から導かれるトップダウンの主体感とが存在する。近年の研究において、トップダウンの主体感は、ボトムアップの主体感とは独立に働き、社会適応的な側面を持つこと、また発達上生後1年目の後半で獲得されることが指摘され始めてきたが（Miyazaki et al.,2014;Wang et al., 2012）、そのメカニズムは明らかにされていない。本計画では、我々がこれまで行為主体感の発達評価のために開発してきた視線随伴課題を用いて、トップダウンの行為主体感の発達過程と社会適応的上の意義について明らかにする。

平成28年度の検討により、トップダウンの主体感の様相をより精査する必要が生じたため、計画を変更し、平成29年度は、乳児のとる合目的な視線の操作が、habitのような収束的な行為であるのか、あるいは文脈に応じた柔軟な操作なのかを明らかにするための実験を実施した。

具体的には、社会的な相互作用（道徳的態度）が観察されるアニメーションを見せ、その文脈に応じて視線の操作（合目的視線）を柔軟に変化させるのかどうかを、8ヶ月児を対象に実施した。

その結果、自分の視線の操作が悪役キャラクターを懲らしめられるような文脈では、懲らしめるような目の動きが観察された。その一方、視線でアニメーションを変化させられるが、懲らしめられないような文脈では、懲らしめるような目の動きが減少した。このことは、乳児の視線の操作が文脈に応じた柔軟な合目的操作であることを示唆している。

６．キーワード

視線随伴　Agency　乳幼児　視線計測

７．現在までの進捗状況

区分　（2）おおむね順調に進展している。

理由

平成29年度は、トップダウンの主体感の様相を探るという方向転換はあったものの、実験被験者の協力も無事に得られて、実験を進めることができた。実験計画としては統制条件の実施を残すのみとなっている。

８．今後の研究の推進方策

平成28年度における研究により、8ヶ月児は合目的な視線の操作をするが、その行為は健在的な自己判断には立脚していない可能性が示された。これを受けて、平成29年度はトップダウンの主体感の様相を明らかにするため、文脈に応じた視線の操作が見られるかどうかを検討した。その結果、文脈に応じた視線操作の変化が観察された。
平成30年度は引き続き、この文脈に応じた視線操作が、正しい乳児の文脈理解に立脚しているのかどうかを検討していく。

９．次年度使用が生じた理由と使用計画

（理由）
乳幼児の実験を3月末まで継続して実施した。そのため、主に3月末分の実験補助謝金、被験者謝金部分が次年度の請求になった。
（使用計画）
次年度使用理由の通り、3月の実験にかかる費用を次年度分の請求で使用する計画である。

１０．研究発表（平成２９年度の研究成果）

〔雑誌論文〕　計1件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 磯田昌岐・宮﨑美智子	４．巻 69（1）
２．論文標題 マカクザルの自己認知と自他区別	５．発行年 2018年
３．雑誌名 生体の科学	６．最初と最後の頁 24-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計0件

〔図書〕　計1件

１．著者名 堀 忠雄、尾崎 久記、室橋 春光、苧阪 満里子	４．発行年 2018年
２．出版社 北大路書房	５．総ページ数 380
３．書名 生理心理学と精神生理学　第III巻　展開	

１１．研究成果による産業財産権の出願・取得状況

計0件（うち出願0件／うち取得0件）

１２．科研費を使用して開催した国際研究集会

計0件

１３．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

－

１４．備考

－